

まちと遊びからモノ・コト・バを企画するラボ 西大寺地区のモノ・コト・バにちなんだ「テラウィン」の企画・実施

お世話になった連携先団体など

- 西大寺観音院 ・ 岡山商工会議所 西大寺支所 ・ おにぎり劇団
- 西大寺活性化協議会 イベント推進委員会
- 株式会社さくら祭典 ・ 株式会社キョードー ・ 中国銀行西大寺支店

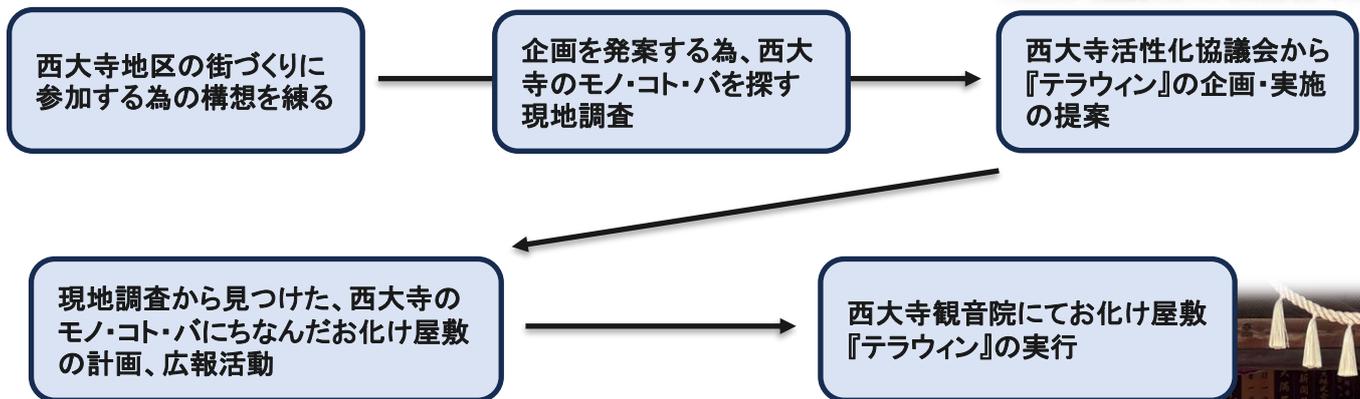
ラボで解決に取り組んだ課題

西大寺地区のモノ・コト・バを調べて見つけた特産品や歴史的な出来事にちなんでお化け屋敷を企画し、西大寺観音院を舞台とするイベント「テラウィン」の中で実施した。

お化け屋敷の怖さと親しみやすさの塩梅を調整するための工夫が求められた。

活動のあらましについて

西大寺地区のまちづくり活動の1つとして、子育てファミリー世代をターゲットに、ハロウィンの季節にお寺を楽しんでもらうことを目的としたイベント「テラウィン」が、西大寺観音院で行われることになった。私たち学生は、おにぎり劇団をはじめ地元企業・団体から協力を得て、観音院を舞台としたお化け屋敷の企画・実施を行った。



1年間の活動の総括・成果について

成果

お化けの仮装や仕掛けを試行錯誤しながら工夫し、チームで具体的な形にまとめることができた。視察を通じて会場の安全性を確認し、事故のない運営を実現した。

課題

ターゲット層への配慮が不足し、一部の参加者、とくに幼児にとって恐怖を感じる場面があった。PR活動の事前準備や広報手段の多様化が不足していたため、十分な情報発信ができなかった



担当教員：宮脇 靖典。

所属学生 9 名（ポスター制作） 石原尚哉、開原真央、金光恭佑、河上七登、滝安亮太、廣瀬俊紀、森本遥、森谷真大、李佳軒

モノ・コト・バ企画ラボ

ラボの課題

モノ・コト・バを企画して企業、組織に提案すること

秋学期の活動報告（アドベンチャーツーリズムによる地域活性化など）



行った取り組み

< JTB地球いきいきプロジェクト >

・ 邑久町の牡蠣とSDGsとの関連性を学びました。

< 電動キックボード >

・ 懸念点はあまり知られてないことから電動キックボードに乗った人を見ると不安感があることや、修理が必要な時に電動キックボードのお店が普及してないことから不便だと感じました。

・ 風を感じながら移動することはとても気持ちよく、また自転車よりも楽な部分が最大の魅力だと考えました。

< 人材育成カレッジ >

・ 多数のビジネスマンの中でディスカッションを行い、それぞれの事業プランを発表しました。

< 玉野サイクリング >

・ 観光協会の方々と体験して感じたことや今後の課題をディスカッションしました。神社や古民家カフェを周りましたが、その他にも周辺には玉ノ湯などの温泉施設などがあり、自転車で街を回ることにより街にお金が落ちて経済が回ると考えました。

まとめ

・ アドベンチャーツーリズムの視点を養うことで岡山は更なる発展が見込めると感じました。また、僕たちはその街の資源（モノ）自体を把握し、特性を理解することでこの場所（バ）でこのアクティビティ（コト）を掛け合わせると新たな良さが生まれるのかという発見をしました。・ アドベンチャーツーリズムの体験を行うことで岡山の観光資源と文化を知り、どのように活用すれば、新たなイノベーションを生むことが可能なのか考察できるようになりました。

担当教員：林恒宏

所属学生 4名

ポスター制作：玉置尚也、富山天翼、吉永春輝、加藤悠陽

モノ・コト・バ企画ラボ

～目指せ商品化 Sカレ～

ラボ課題

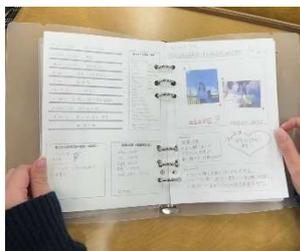
モノ・コト・バを企画して企業・組織に提案すること

活動内容

春学期では、複数の企業等が参加するオープンイノベーションイベントや天満屋様の講演・見学に参加しました。**Sカレ**の活動としては、書店や文具店へ市場調査を行いました。夏休みには武庫川女子大学へ行き、合同プレゼン練習に参加しました。他大学の学生さんのプレゼンの話し方や構成など積極的に吸収しました。

Sカレとは、全国32大学38ゼミ

500人以上の169チームが企業から提示された9つのテーマに分かれ、それぞれ商品企画のプレゼンテーションを行い、実際に商品化を目指して競い合う大会です。



秋学期では、本格的に**Sカレ**の活動が始まりました。私たちは「段ボール・クリアシート」「誰かが幸せになる紙文具」「ユーティリティの磁石商品」のそれぞれ3つのチームに分かれて商品企画を行いました。ターゲット設定やアンケート調査、プロトタイプ制作など、1から商品企画を考え、企業の方とミーティングを重ねながら最終的なプレゼンテーションを完成させました。残念ながら商品化にはいたりませんでした。私たちにとても貴重な経験となりました。

1年間のまとめ

業界の専門家や経営者の方と意見交換を行うことで、ビジネスに対する理解や物事を多面的に見る視点が深まった。

企業と連携した商品企画・開発を通じて実際の現場における考案、課題解決のプロセスを学ぶことができた。

お世話になった連携先

Sカレ(Student Innovation College)、吉備オープンイノベーション協会、天満屋 他

担当教員：本下真次

所属学生：平松采恵 片山紗彩 吉岡春香

塩田稜平 木村雄太 藤巻匠 三好亮輔 中田浩誠 末房稔樹